



職員研修



●1月『自己スキルアップ学習』

自己スキルアップ学習月とし、各職員が興味を持っているテーマから講義や実技を選び、ネット学習してもらいました。

日頃ご利用者様と関わるなかで職員も不安や心配事を抱えることがあります。それぞれの個々の想いに対して、自分で選択する形をとることで、関わりのヒントに繋がればという目的で実施しました。人気がある『三好春樹さんの講義』を選ぶ方もいれば、特養で最期を迎える利用者がいることから『看取り』や『死を直前にしたケアのポイント』、その他に『事故』や『痛み』、『口腔ケア』など多岐に渡ってテーマを選ぶ職員がみられました。今後のケアに是非活かしてもらいたいと思います。

●2月『食事介助時の姿勢』

『正常な排泄とは』

『入浴のアセスメント』

『食事介助時の姿勢』では、食事摂取するうえで姿勢の大切さや介助スプーンの形状の特徴とどういった状況に適しているのか、基本的な食事介助の仕方などを確認しました。

『正常な排泄とは』では1日の排尿量・排泄時間・尿の色・回数など日頃目を向けるポイントや膀胱に半分～1/3程度で初発尿意を感じる、尿意を感じてから1時間程度我慢してからトイレに行くことで膀胱がきちんと溜めることができるように鍛えられるなど、知らなかった情報も得ることができました。

『入浴のアセスメント』では、アセスメント項目「本人の状況」「介護力の状況」「環境」「用具」「入浴動作」を確認しました。入浴は、身体の清潔を保つ。身体機能の免疫を高め、感染を予防する。また、リラックスした爽快感が得られ、意欲的になれる。さらに、他者との交流や社会参加に自信が持てるようになる。といわれています。





夜間想定防災訓練

令和4年3月10日（木） 14：00～

コロナウィルス流行や職員のワクチン接種日程の影響で3月に防災訓練を実施しました。

訓練内容：①夜間帯、西3階藤7号室からの出火想定での消火及び避難訓練
(火災表示機が感知して、初期消火及び利用者の避難誘導まで)

* 西3階での消火及び避難訓練の後、

- 1 桜ユニットの火災表示機や119番火災通報専用電話機がある場所に移動、消防署へ訓練である旨の電話を入れる
- 2 防火扉を開ける操作体験
- 3 感知器が作動した場合の防火扉の動きを確認

②災害用ご飯（施設備蓄）のマジックライス炊飯体験

③正面玄関前（屋外）で水消火器での消火訓練

『いざ有事の際にどれだけ動くことができるのか』、実際に行動し状況を把握しておくことはとても重要です。応援職員が火元のユニットへ駆けつけるまでに思っていた以上に時間が掛かったり、防火扉を操作する動作にコツが必要なことを実感しました。やはり定期的に実際に動いて感じたり、確認することが大切だなあと感じました。そして、今回の経験を今後の行動に少しでも活かしていきたいと思っています。

* 訓練後、防火扉には手で押す箇所がわかるようにカラーシールを貼って目印をつけました。

是非皆様もご家庭で確認していただくことをお勧めします。



「20年後の未来に届く手紙」

施設長 柿沢佳世子

令和4年度がスタートしました。理事長が植えた桜も咲き揃い春爛漫です。毎年恒例の理事長が掘って来て下さる筈はまだ出ていないようです。

皆様にとっての昨年度はどのような一年だったでしょうか。施設としては5月に施設のロゴマークTシャツを作成、6月に一回目のコロナワクチン接種開始、6月16日に15周年を迎えました。コロナワクチンは3回目の接種も終え、クラスターも発生せずに過ごせましたのは皆様のご協力のおかげです。また、各地での自然災害、大地震の多発。大雪の日も多く、雪深い所から出勤する職員は2時間以上かけて通勤する日が続き体調を心配すると共にとても有り難かったです。北朝鮮の日本付近へのミサイル発射。そして2月に始まったロシアとウクライナの戦争。一体世界はようになっていくのか。もやもやと不安がいつも心の中にありました。1週間前のある日、仕事から帰ると見覚えのある字で書かれた封書が届いていました。一瞬「えっ」となり、なぜ亡くなった母から手紙が届いたのか。封書には懐かしい母の字で住所と主人、私の名前が書かれていました。封筒には実家のお墓がある〇〇院の名前と「20年後の未来に届く手紙」ご寄進いただいた方々の記念で鐘楼堂の地下別室に収納されていた手紙です。本日、皆様のお手許に帰りました先祖よりの手紙です、と印刷されていました。中に入っていた母の手紙には、
平成14年3月20日、晴、〇〇〇〇〇、73歳。

〇〇院「六波羅密鐘」建立にあたり「梵鐘は仏様のお声」と心を和らげて日々、暮らせますことを感謝申し上げます。二十年後も、子孫が元気に生き続けていけますように、お護り下さい。心よりお願い申し上げます。

特に信心深い印象はなかった母ですが、そう書いてありました。この手紙の事を知らせたく離れて住んでいる子供たちと、私の兄に写真で手紙を送りました。子供たちは「タイムカプセルみたいだね」「おばあちゃん、見守ってくれてるんだね」兄は「京都アニメーションのヴァイオレット・ガーデンの中で亡くなった母から毎年手紙が届くエピソードみたいで、何だか嬉しいし感動した」とそれぞれが祖母、母を思い出し一瞬で母が生きていた頃の記憶がよみがえりました。この手紙を書いていた時、母は自分の病気のことを知っていたのだろうか？母が亡くなる五年前に姑である祖母を96歳で看取り、その三年後、夫である私の父を74歳で看取り、やっと自由な時間が出来たのでやりたい事、行きたいところがあればどこでも行くよ、とっていたところ、悪性中皮腫になり、父の死の二年後平成15年に亡くなりました。義父も同じ年に88歳で亡くなりました。その頃どうしていたかなと、ふと10年日記を出して見てみました。まあ、ほとんど書いてない。でも母がこの手紙を書いた数ヶ月後あたりから大学病院に何度も検査に連れて行ったこと、入退院を繰り返していた事は書いてありました。話は前後しますがこの手紙が届く1週間前、私が赤ちゃんの時の動画が私のラインに急に入ってきました。私の父は8ミリの会社にいた関係で、父に撮ってもらった8ミリがたくさんありました。その動画は主人が一部ビデオにして撮ってくれたものですが、主人も急に出てきたので送ったと、なぜ出てきたのかよくわかりませんでした。父はいつも撮る側で父の顔は写っていないのですが、よく聞いてみると「表情が出てきた」

とか「可愛くなってきた」と言ってくれているのが聞こえました。若く生き生きした母と一年生くらいの兄が嬉しそうに私をあやしてくれている姿も映っていました。母が願ってくれた通り、私たちは今、生きています。母がこの手紙を書いた一年後、死ぬとわかっていたのかそうでなかったかはわかりません。私自身もいつ死ぬ日がやって来るのかわかりません。うちだけではなく、全ての人がこうして次へへと繋がっていくのだなということ、愛されていた事、いつも見守られていること。自分がしてもらったように、家族、周りの人や自分自身も大切に、今の気持ちを忘れずに生きていこうと思います。気持ちが落ち込んだ時に素敵なサインをくれてありがとう！私も子孫に(孫はまだいませんが)ドッキリ、びっくり、嬉しい何かを残せないかな？と考えております。何かいいアイデアがありましたら是非、教えてください。



コロナ感染拡大予防の為、感染に配慮した行事を予定しています

- 2/2 節分の豆まきイベント
- 3/23～3/30 お花見イベント
- 4/4 お花見ご膳 (右写真)



往還ホールにて初任者研修を開催中

例年開催している三幸福祉カレッジさんによる初任者研修が、2/6(日)から5/22(日)までの日程で開催しています。コロナ対策として、検温や体温チェック、消毒など十分注意して実施して頂きますので、ご安心ください。ご理解の程宜しく申し上げます。



お問い合わせ・お申込みは下記まで
三幸福祉カレッジ
0120-294-350
 (平日 8:50～19:30) まで



編集係より

ツバメが巣の周りを飛んでいる光景が見られ始めました。4/6時点で2組の夫婦が子育ての準備をしているようです♪

当施設ホームページも随時更新しております。パソコンやスマートフォンから、是非ご覧ください♪



公式HPへはこちらのQRコード、または検索から！

三重 健寿会

検索



インスタグラムもやってます！フォローしてね！
 @wakuwakuoukan